

別紙

温室効果ガス排出削減計画

氏名	(法人にあつては名称) 中国電力株式会社		住所	(法人にあつては主たる事業所の所在地) 〒730-8701 広島県広島市中区小町4-33	
本票作成	部署名：カーボンニュートラル推進本部（環境技術グループ）				
主たる業種	分類コード	33	業種名：電気業		
事業の概要	電気事業 従業員数 383人（令和6年3月末現在）				
県内の主な工場等	番号	工場等の名称		所在地	
	①	玉島発電所		倉敷市玉島乙島字新湊8253番2	
	②	水島発電所		倉敷市潮通1丁目1番地	
	③	津倉ビル		岡山市北区津倉町2丁目2番2号	
	④	岡山支社		岡山市北区内山下1丁目11番1号うちさんげ電気ビル内	
	⑤	新成羽川発電所		高梁市備中町平川3446番地の2	
	⑥	湯原第二発電所		真庭市久世3168-2	
特定事業者の該当要件	<input checked="" type="checkbox"/> ①燃料等原油換算1,500kℓ以上 <input type="checkbox"/> ②バス・トラック100台、タクシー250台以上 <input checked="" type="checkbox"/> ③CO ₂ 換算3,000t以上 (●工場等の数 28 所 ●車両台数 (②該当の場合) 台)				

計画期間	令和 6 年度 ～ 令和 9 年度 (4 箇年度)								
削減目標	いずれかを選択	<input type="checkbox"/> 総排出量基準	目標削減率 3.9 %	目標区分	20%以上	20～15%	15～10%	10～5%	5%未満
		<input checked="" type="checkbox"/> 原単位基準							
温室効果ガス排出量	基準年度 (令和 5 年度)			目標年度 (令和 9 年度)					
	156,992 t CO ₂			150,806 t CO ₂					
基準年度の主な工場等の排出量	番号	工場等の名称		基準年度 (令和 5 年度) の排出量					
	①	玉島発電所		126,286 t CO ₂					
	②	水島発電所		26,637 t CO ₂					
	③	津倉ビル		2,207 t CO ₂					
	④	岡山支社		1,001 t CO ₂					
	⑤	新成羽川発電所		203 t CO ₂					
	⑥	湯原第二発電所		54 t CO ₂					

※ 「計画期間」欄には、5箇年度以内で特定事業者が定める期間を記入する。

(原単位基準の削減目標を選択した場合に記入)	温室効果ガスの排出量と密接な関係をもつ値の内容 販売電力量 (岡山県)	原単位当たり排出量	
		基準年度	目標年度
		0.0129 kg CO ₂ / (kwh)	0.0124 kg CO ₂ / (kwh)

(該当事業者のみ記入)

ベンチマーク	対象事業の名称	ベンチマーク指標	関連数値 (令和 5 年度)	達成率 (%)
指標の状況	電力供給業	A:1.00円≧B44.3% 以上	-	-

【目標削減率設定の基本的な考え方】

エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律で年間のエネルギー消費量を1年ごとに1%以上削減することが求められていることから、目標削減率とした。

【目標削減率達成のための推進体制】

○環境管理の最高責任者である社長のもと、カーボンニュートラル推進本部長が全社環境管理推進者として全社の環境管理を総括しています。
 ○環境管理活動は、全社的な環境管理の仕組みを定めた「環境管理規程」および「環境管理取扱細則」に基づいて、各事業所等において着実に実践しています。
 ○全社環境委員会、中国電力グループ環境委員会およびカーボンニュートラル推進会議等での審議結果を適切に環境経営に反映することで、「中国電力グループ環境行動計画」およびカーボンニュートラルに向けた取り組みをグループ一体となって推進しています。
 ○また、省エネ法に基づき、カーボンニュートラル推進本部長をエネルギー管理統括者とした体制も整備しています。

【排出量削減のためのこれまでの主な取組】

工場等の名称	取組内容
水島発電所	○水島発電所1号機は、使用する燃料を石炭から天然ガスへ転換するとともに、コンバインドサイクル発電方式を採用した設備に改造し、2009年4月8日に営業運転を開始しました。この改造により、約50%という高い熱効率での運転が可能となりました。 ○水島発電所3号機について従来の重・原油からLNGへ燃料転換しました。（運転開始：2006年4月） ○非効率石炭火力である水島発電所2号機を廃止しました。（2023年4月）
玉島発電所	○玉島発電所1号機について従来の原油から原油＋LNGが使用可能となるように燃料転換しました。（運転開始：2014年4月）

【計画期間中に目標削減率を達成するために実施する措置】

工場等の名称	措置内容
全体	○再生可能エネルギーの導入量の最大限拡大、安全を大前提とした原子力発電の早期稼働・安定的な運転継続、火力発電の高効率化・脱炭素化（非効率石炭火力のフェードアウト、バイオマス発電の混焼拡大、水素・アンモニア発電の実装準備等）、お客さまの脱炭素化ニーズにお応えするソリューション提案などにより、温室効果ガスの排出抑制に努めます。 ○オフィスでの電気使用量低減に向けて引き続き取り組みます。

【森林保全等吸収源対策への取組計画】

県内での取組	有	吉井川・高梁川の上流に水源涵養林を保有しており、適切な維持管理をします。
その他	有	広島県の太田川の上流に水源涵養林を保有しており、適切な維持管理をします。

【再生可能エネルギーの導入計画】

県内での取組	有	再生可能エネルギーによる発電設備の系統連系の申込みに対する手続きを速やかに行うとともに、計画的に系統連系工事を実施するなど、導入拡大に取り組みます。
その他	有	○当社は、中国電力グループ環境行動計画において、「再生可能エネルギー新規導入量」の目標を「2020～2030年度、30～70万kW」、「再生可能エネルギー導入拡大に向けた対応」の目標を「可能な限り導入（系統接続量）」として取り組みます。 ○三隅発電所・新小野田発電所において、木質バイオマスの混焼発電に取り組みます。 ○既存水力発電設備のリパワリングに取り組みます。

【その他特記事項】

○電力業界全体における実効性ある地球温暖化対策推進を目的として、2016年2月に設立された「電気事業 低炭素社会協議会」へ参画し、電気事業全体の2030年度CO₂排出抑制目標達成に向け取り組んでいます。また、温暖化問題への取り組みを重要な経営課題と認識し、中国電力グループ環境行動計画に「地球温暖化対策の推進」を掲げ、CO₂排出削減に取り組んでいます。
 ○供給安定性・経済性に優れた石炭火力を将来にわたって活用していくため、「高効率化」と「低炭素化」に資する技術として、電源開発（株）と共同で設立した大崎クールジェン（株）によりCO₂分離・回収型IGFC（石炭ガス化燃料電池 複合発電）の開発を実施しました。そして、2023年度にはカーボンニュートラルの実現に向けて、石炭と木質バイオマスの混合燃料ガス化技術開発に着手しました。また、カーボンリサイクル技術として、Gas-to-Lipidsバイオプロセスの開発やトリプルCリサイクル技術の開発（CO₂-TriCOM）に取り組んでいます。
 ○地球温暖化防止に向けて、民生部門の取り組みがますます重要になっていることを踏まえ、「エコ・オフィス実践行動プラン」・「エコ・ライフ実践行動プラン」により、日常業務・生活に密着した省エネルギー、省資源・リサイクル活動を中国電力グループ全体で展開しています。
 ○CMやホームページで省エネ・節電PRを実施しており、省エネ・節電の手法・アイデア等を紹介しています。